

# 中野区教育委員会会議録

令和元年第7回臨時会

令和元年8月2日

中野区教育委員会

令和元年第7回中野区教育委員会臨時会

○日時

令和元年8月2日（金曜日）

開会 午前9時00分

閉会 午前11時15分

○場所

中野区役所5階 教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 渡邊 仁

教育委員会委員 田中 英一

教育委員会委員 小林 福太郎

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

○出席職員

教育委員会事務局次長 戸辺 眞

子ども・教育政策課長 永田 純一

指導室長 宮崎 宏明

○書記

教育委員会係長 落合 麻理子

教育委員会係 香月 俊介

○会議録署名委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

○傍聴者数

0人

○議事日程

1 協議事項

(1) 令和2年度使用教科用図書の採択について（指導室長）

○議事経過

午前9時00分開会

入野教育長

おはようございます。

定足数に達しましたので、教育委員会第7回臨時会を開会いたします。

本日の会議録署名委員は、伊藤委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりでございます。

ここでお諮りいたします。

本日の協議事項「令和2年度使用教科用図書の採択について」は、採択過程における審議の公正を確保するため、「中野区立学校教科用図書の採択に関する規則」第10条第1項に基づき、非公開の取り扱いとなっておりますので、本日の教育委員会についても、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項のただし書により、非公開としたいと思っておりますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、非公開とすることに決定いたしました。

(以下、非公開)

(令和元年第22回定例会における会議録の公開決定に基づき、以下非公開部分を公開)

<協議事項>

入野教育長

それでは、日程に入ります。

協議に入る前に前回の臨時会から本日までに、教育委員会及び教育委員あてに、要望書などが届いておりましたらご報告願います。

指導室長

前回の臨時会から本日までに届いた要望書はございません。現時点での要望書の件数は、前回報告時と同様に3件でございます。

入野教育長

それでは、前回に引き続き「令和2年度使用教科用図書の採択について」の協議を行います。協議の進行につきましては、前回と同様の方法により行いたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、理科について協議を行います。

各委員から順にご意見を伺いたいと思います。まず田中委員、お願いいたします。

田中委員

理科ですけれども、私は、教科の目標の中にある観察・実験などを通じて問題解決の力を養うという視点と、それから特に3年生のなぜという問題を見いだす力というところを比較して検討してみました。

そういった点から5社のうち大日本図書と東京書籍が、中野には良いと感じました。

大日本図書では、事例の例示に写真を用いて児童がわかりやすいのではないかと思います。これは選定調査委員会でも同じような意見が出ていたと思います。全体に学ぶ過程を大事にした内容になっているのかなと感じました。

東京書籍も同様で、導入のところで漫画を用いて、児童が理解しやすい工夫がされると感じました。特に冒頭の理科の見方、学んだことを使うなど、具体的に役立て方を例示したところも良かったのかなと思います。

あと両社は、ノートの作成について丁寧に書かれていて、児童がこの点も参考になって学びやすいのではないかと思います。

それからもう1点、5年生の人の誕生のところで比べてみました。全体的に大日本図書は割とコンパクト、東京書籍は非常に丁寧にこのことについて書かれていましたけれども、大日本図書のコンパクトさがかえって児童には理解しやすいと感じました。この傾向は全体的にも言えるのではないかと感じたところです。

ということで、5社のうち大日本図書と東京書籍、特に大日本図書が中野区には良いのかなと感じたところです。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。次に小林委員、お願いいたします。

小林委員

理科については、現在、教育出版を使っているということですが、そういったこれまでの実績も含めて、少し検討してみたいと思いました。

実際に他の会社のものを見比べてみると、一つは防災の視点ですね。非常に大きな関心のある部分ですが、その中に中野区が取り上げられていたり、実際に車がいわゆる波にもまれているような緊迫感のある写真が出ていたり、児童にとっては非常に印象に残

る教科書の編集ではないかなと思いました。

一方では、全体的に取り上げている内容の項目のバランスを考えると、やはり大日本図書の方が比較的優位性が高いのかなと思いました。特に、ものづくりの種類の数では、大日本図書が多く取り上げています。教育出版も、そういう点では内容的にも良かったと思うのですが、もし中野区でということであれば従来使ってきた教育出版、さらには大日本図書のいずれかが候補に挙がるのかなという印象を持ちました。

それからどの会社も、写真をうまく使っているというのが印象的でしたけれども、そういったまとまりではやはりこの2社が優位性が高いと判断をいたしました。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。次に伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

私は、子どもたちが見たときの理解のしやすさ、ポイントが入っていきやすいかということを考えました。理科が得意な子にとっても苦手な子にとっても、大事な情報が入ってきやすいということを主な観点として見たところ、各社とも写真は美しいのですが、大日本図書のものでは、レイアウトも美しくポイントが見やすい、写真そのものも、どこが大事な点なのかということがとてもわかりやすい、工夫されたものが多いかなと思いましたので、大日本図書がよろしいのではないかなと思いました。すっきりしていて全体的に見やすいですし、今、申し上げたように写真もとても焦点化されていると思います。

その他、各社工夫がされているのですが、教育出版は理科が始まる3年生でのノートのとりの説明ですとか、学習の進め方なども丁寧で、学習を進めやすい部分もあるのかなと思いました。

どの教科書も実験の機材の扱いは、比較的丁寧だったと思うのですが、この2社がわかりやすいのではないかなと思っております。特に、大日本図書がわかりやすいかなと思いました。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。それでは次に渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員

理科については、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことな

どを通じて問題を科学的に解決するという教科の目標がありますので、見方・考え方がどのように働かされているか、そして問題解決の学習の過程がどのように工夫されているかという点で、教科書を見させていただきました。

問題解決の学習の工夫ということにつきましては、5社ともに非常によくまとまって書かれているのではないかなと思います。特に、これが良いというイメージはなかなかなかったですけれども、それぞれ工夫がされておりました。

ただ、学校図書は、問題を解決するとき、問題とわかったことが同じページに記載されているために、先に答えがわかってしまうというようなことがありました。他の4社につきましては、めくった次のページに書かれるような工夫がされているところが良いのではないかなと思いました。

また、内容についてなのですが、東京書籍は「理科のミカタ」「学んだことを使おう」やどのような働きかなど具体的に明記しているところはとても良かったと思います。大日本図書も、何年生で学んだことという形で具体的に表現してあり、系統性を持たせた授業が行えるというところが良かったと思います。学校図書に関しては、この系統性についてあまり書いていないように感じたので、この辺が少し残念だったのですが、重要なことは太文字にし、大事な言葉という形で表現しているところは非常に良かったと思います。教育出版は学習のつながりとして、中学校までの系統をしっかりと書いているところが非常に優れていました。大きさについてはA4、A B版とあって、大きさによる使い勝手については、あまり参考にならないなど、今回、私は思いました。

実験器具の事故防止に関しては、それぞれ最後のページに東京書籍と大日本図書はまとめてあって、とても良かったです。学校図書もそうでした。教育出版はまとめた記載がなく、少し残念だったのですが、赤字で目立つように記載しているところの工夫があって、そのあたりは良かったです。

防災については、いろいろ先程からもご意見がありましたけれども、教育出版は中野区の地下調節池の記載があったので、中野区で使うには良いと思っています。

その他、人間の体についてしっかり書いてあるのは教育出版だったと思います。ICTでは、若干東京書籍がいろいろと工夫がされている感じはしたのですが、どれも甲乙つけがたい感じでした。

今回、全体的に非常にバランスがよくて、内容の分量ともに各社同じような傾向がありました。私自身が一番良かったのは大日本図書とは感じていたのですが、教育出版

もなかなか捨てがたいという感じでした。教育出版は、問題解決の流れが教科書のページをめくると子どもことばで表現されていて、徹底して丁寧にされていますけれども、大日本図書の方が学習を進めるに当たって大切なことや科学的見方を大切にして問題解決していくところに重点が置かれているように感じて、問題解決の流れに沿って記述が細かいというところもあわせて、非常にバランスが良かったのではないかと思います。そういう意味で今回は、大日本図書を推薦したいと思いました。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。最後に私の意見を申し上げます。

私は大きく3点で見ってみました。1点目は先程子どものお話が出ましたけれども、私は必ずしも理科が得意ではない、専科でもない教員に使いやすいという視点で見ってみました。2点目は観察実験のことで、3点目は資料の部分ということで見ってみました。

選定調査委員会の意見の中からも、専科でない教員にも非常に使いやすいという意見が、東京書籍と大日本図書に書かれており、私も同様の意見を持ちました。それから学校からの意見でも、教員にとって使いやすいのではないかというご意見もありましたので、その2社が良いと思います。

さらに先程もお話が出ましたけれども、ノートの例示という意味では、いずれの教科書も巻末等で例示が出ているのですけれども、東京書籍、大日本図書、学校図書が、非常にノートの例示についてはよく書き込まれているという印象を持ちました。東京書籍は友達の意見を聞く工夫や、対話的な学び、そういうものが重視されているノートの例示などがあり、大日本図書にしても学校図書にしても、ノートについては使いやすいと思います。イメージ図を用いているのが大日本図書で、書いたことは消さないという、よく教員はそういう指導をするのですが、理科ノートの作成ルールが書かれているのが大日本図書でした。専科でない教員も、ノートのことや、吹き出しで書かれている見方・考え方など、使いやすいという点でやはり東京書籍、大日本図書が良いと思います。

観察実験は、東京都の資料では、観察実験に割かれているページ等が調査されていますが、それを見ていきますと、やはり非常に学校図書が多かったり東京書籍が多かったり、教育出版については観察実験のページ数が、特に内容Aについて割かれているという違いがある程度見られるように思いました。

資料については、区民の意見でも絵よりは実物や写真があると良いのではないかという

意見もございましたけれども、私が良いなと思ったのは、啓林館の「フクロウはかせのしりょう室」というコラムも充実してるところ、それから昆虫や植物の探検カード等の付録も良いかなと思いました。ただ学校の使い勝手としては、どうかなというところまでは考えてはおりません。教育出版も生き物ミニ図鑑や星座早見盤、さらに花の写真が非常に見やすい感じを受けましたので、そのあたりも良いと思います。

最後にプログラミング教育に関わってということでは、どの会社もさすがに充実してきているという印象を持ちました。体験的に扱っているのが、大日本図書と教育出版と啓林館でございましたので、私は最終的に決めにくかったのですけれども、教育出版、大日本図書、啓林館が良いのではないかなという考えを持ちました。

他に委員からご意見、ご発言ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

ここで会議を休憩いたします。

午前9時18分休憩

午前9時18分再開

入野教育長

それでは、会議を再開いたします。

全体的に大日本図書というご意見が強いようでした。理科については、大日本図書でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りいたします。

ただいまの協議の結果、理科については大日本図書を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、理科については大日本図書を採択候補とすることに決定いたしました。

次に生活について協議を行います。各委員から順にご意見を伺いたいと思います。まず小林委員、お願いいたします。

小林委員

生活科につきましては、選定のポイントとして幼児期の教育との接続という、いわゆるスタートカリキュラムが非常に重視されているということで、まず第一番目にこの点について各社を見比べてみました。この中で東京書籍のものが一番充実していました。会社に



よってはスタートカリキュラムという文言がないというところがあり、実際に内容としてはあるのですが、わかりづらい状況になっているのが非常に残念なところでもありました。そういう点で現在使っている教育出版とか東京書籍については、非常に充実していると感じたところです。

次に生活科は先々中学年以降、社会科と理科に分かれていくわけで、そういった体系を非常に意識した作りになっているのは教育出版であります。「社会へのまど」や「理科へのまど」というページをうまく折り込みながら、全体的に編集されているということです。他の会社ももちろん内容的には、結果として社会科へつながる、理科へつながるということはあるのですけれども、この点が非常に明確に編集されているのが、教育出版であったと思っています。

続いて、特に生活科の場合には、座学による一方的な指導ではなくて、子どもたちの体験を重視する。また子どもたちの話し合い活動などを深めていくことが非常に重要で、特に気付いたことをみんなに伝えたり表現したりとか、こういったことを非常に意識してつくられているのが、東京書籍であると思いました。中にはイラストを見比べても、どうしても他の会社は従来のように黒板があって、手前に子どもたちが座っているというものが多いのですけれども、東京書籍は自由に議論をすとか発表すとか、そういう場面を意識的に使っているというものが見られました。

その他幾つかの視点があるのですけれども、安全に関する内容、これは生活科の中でも非常に重要なポイントだと思いますけれども、この辺は教育出版、東京書籍、さらには啓林館、日本文教出版も非常に幅広く扱っているところがありましたけれども、総じて教育出版、東京書籍に優位性があるかなという状況であります。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。次に伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

私も低学年、1年生が学ぶということと、理科・社会科へのつながり、そして、子どもたちが自分の身の回りのことと関連付けて自分で疑問を持ったり、考えたりできるということ。特に最後の点は生活科の特長であることを考えて、身近なことから疑問を持ったり、考えたりということがしやすいものという観点を重視しました。

どの教科書もそれぞれ利点があるように思ったのですけれども、一つは東京書籍が、最

初のところも、とても丁寧で「どんなことがあるのだろう」や「新しい学習はどんなふうになっていくのだろう」など、子どもの視点に立った投げかけが多いですし、写真もわかりやすく、イラストも親しみやすく、さりげなく子どもたちの姿の中に多様な、例えば障害があるお子さんとか、いろいろなお子さんの姿が描かれているのも良いと思いました。今回は、各社ともそういう多様性には配慮されているものが多かったのですが、見やすさ・親しみやすさという点からも、東京書籍は1年生が使うときにわかりやすいのではないかなと思いました。

同様に光村図書も、やや理科・社会科への接続は弱いかと思うのですが、気持ちというか子どもの視点に立った言葉かけがとても多く、一般的に理科嫌いとか社会科嫌いということが起きやすいように聞いていますけれども、理科・社会への導入という点でも親しみやすく、自然な形で学習に入っていけるように思いました。

他にも啓林館は写真がすごく美しく、レイアウトも工夫されていてわかりやすかったですし、教育出版はいろいろな工夫があり、書くことやまとめの活動では、「まんぞくハシゴ」という自己評価もできるなど、各社それぞれに工夫があるなと思いました。

総じて見ますと、先程申し上げた1年生への配慮、理科・社会科への接続、子どもの視点ということから考えると、東京書籍と光村図書が良いと考えていて、中でも理科・社会科という後半の接続を考えると、東京書籍が優れているのではないかなと思いました。

以上です。

入野教育長

ありがとうございます。次に渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員

生活科というのは、教育の専門でない私にとっては非常にわかりにくい、判断しにくいところが実際にありました。また今回、教科書も7社と非常に多くて、その中で差を見つけてというのがなかなか困難でした。

小林委員が言われたように、教科の目標として自立し生活を豊かにするための資質・能力を育成することを目指しているというところで、また改訂された学習指導要領の趣旨から幼児期の教育からのつながりということを重点的に私も見させていただきました。幼児期の教育との接続、スタートカリキュラムにどのように配慮されているか、それと具体的な活動や体験から児童の気付きを増やすための工夫がどのようにされているのか。気付いたことを表現する活動の例が充実しているか、このような点について、さらに家庭とか地

域においてどのように関わりを持つようにしているのかということを中心に見させていた  
できました。

そういう意味では、スタートカリキュラムは確かに東京書籍が非常に細かく対応してい  
るのではないかと思います。また幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、いわゆる「10  
の姿」を言葉やイラストで表現しているところが良かったのではないかなと思います。そ  
ういったところでは、大日本図書や学校図書、そして光村図書は、そのあたりの記載が少な  
いというよりも、文章ではあまり書いてありませんでした。

気付きというところでは、大日本図書は児童自身の言葉を引き出す工夫がされていて、  
とても良かったのではないかなと思います。光村図書は、その点で既に気付いてほしいこ  
とを話し合っているような場面があり、どうなのかなと思いました。

伝え合う場面、いろいろと話す場面や地域との関わり、そういったところにつままして  
は、若干今回の生活科の教科書には特徴があり、東京都の資料を見ると地域との関わり  
内容の分量については、東京書籍が他の会社よりも非常に多く取り上げられていました。  
他の部分が少ないというわけではなく、他の部分も十二分に、全体的に、平均的に書かれて  
はいるのですが、安全に関する内容についても、他社よりもかなり充実した形で記載があ  
ります。

本当に多くの教科書があって見比べるのがなかなか大変でした。生活科の教科書は大き  
さが三つ程ありまして、東京書籍がA4版を使っているのですけれども、他のところもそ  
れぞれにサイズの違いがありますけれども、このサイズについてはあまり影響はないかな  
と思いました。

I C Tの工夫は、東京書籍が結構しっかりやっているのではないかなと感じました。教育  
出版は1年生のスタートカリキュラムに該当する内容は結構充実していました。大日本図  
書は写真が多く、単元に系統性を持たせていて、優しい表現で書かれていて、子どもたち  
にとって読みやすいなと思いました。また、大日本図書は教科書の紙の質が良いというイメ  
ージもあります。

子どもの興味・関心が非常に高まる教材で、気付きやまとめ方などの例示が非常に豊富  
に書かれ、右ページに学び方、左ページに考え方という工夫をされたページ構成、そして地  
域との関わり分量、安全に対する配慮に非常に多くの内容を割いている東京書籍が、今  
回は、大日本図書と迷ったところはあったのですけれども、良いのではないかと私は判断  
いたしました。

以上です。

入野教育長

ありがとうございます。次に田中委員、お願いいたします。

田中委員

生活ですけれども、1年生、2年生が使う教科書ということで、子どもたちが見やすい、取り扱いしやすいという点と、それから生活科という教科の中で身近なことに興味を子どもたちが感じるような、そんな工夫がされているのかという点で見てみました。

各社ともいろいろな工夫がされているのですけれども、私は大日本図書と東京書籍がその中でも良いのかなと感じました。東京書籍は、全体的に情報がバランスよく盛り込まれていて、特に保護者へのコメントという部分もあって、非常に丁寧に編集されていると感じました。A4版という大きさと、割とゆったりしていて見やすいのですけれども、1、2年生が扱うには少し大き過ぎるのかなということも感じました。大日本図書は、「たのしいせいかつ」というネーミングが低学年にはうまく取り組みやすいと思いました。それから季節の変化を、モノクロ写真を掲載して気付きを引き出そうという工夫も評価できました。また、栽培で収穫後の調理まで出ているという点は、食育につながると感じ、これは非常に良い点だと思いました。もう1点、大日本図書の表紙に凹凸があって、触感というのですか、そういったことを児童に伝えようとしているのかなと思ったのですけれども、これもおもしろい試みかなと感じました。

ということで、大日本図書と東京書籍のいずれかを感じたところですが、いろいろな工夫がある点で大日本図書を私は推薦したいと思います。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。最後に私の意見を申し上げます。

それぞれの教科書会社が特徴的だったと私自身は思っています。

今、各委員からのお話にも出ましたように東京書籍は、2年間にわたって非常にバランスよく押さえるべき九つの内容が扱われています。その季節によって扱っている内容も、本区には合っているという気がしました。理科の視点を充実させているように感じたのが大日本図書で、やはり同じように九つの内容が季節に沿って扱われています。学校図書については、五つの大単元方式で九つの内容を網羅するような形ですので、特徴的であると思いました。教育出版は、振り返りを意識しながらという部分が、強調的に見られたような

気がしております。光村図書は、地域との関わりを軸にしているという印象を持つような構成でございました。啓林館は、三つの段階の構成で、内容がバランスよく扱われているという感じがしましたし、そこが特徴的であると思いました。日本文教出版は、縦のつながりを意識しているような印象を受けました。

生活科の授業をしていく上で、子どもたちの気付きに教師が気付けるかということと、さらにその気付きを子どもたち自身が深めていけるような教師の支援ができるかということが、一番授業に大きいと思いますので、その点についても、先程ご意見も出ましたけれども、私自身も注目して見ていきました。

どんな気付きを子どもたちに育てていったら良いかということが、教師がわかりやすいのは東京書籍だと思いますけれども、若干あまりにも教科書の中の発言が具体的なために、反対に児童の気付きの自由度というのは、教科書で教えていくことになると、少し制限が出てしまうという印象を持ちました。学校図書については、どちらかというとき吹き出しに疑問文が多く、気付きの視点をそういう形で与えているという感じがいたしました。教育出版については、自分で空欄の言葉を当てはめて表現できるような工夫になっているので、ある意味児童自身の気付きも、教科書を使ったり、教科書で教えたりしても引き出しやすいと思いました。啓林館については、吹き出しの数とか内容を段階的に増やしていっていますので、気付きというものを徐々に、量的にも質的にも増やせるような構成になっていると思いました。日本文教出版についても、吹き出しの数はページによって工夫しているという印象を受けました。

先程来、出てきましたけれども、安全についての部分を見ますと、選定調査委員会の調査報告からも、安全について特に危険な生物に関する記載があるのが学校図書、教育出版、光村図書ということで、安全の中でも子どもたちが接する可能性があるそういうものについて取り上げているところは良いと思いました。都の調査研究資料からですと、非常にバランスよく取り上げているのですが、中野区の実態から言いますと、自然と触れ合ったり関わったりする活動自体を比較的多く取り上げている東京書籍が良いという感じも受けました。特に安全の中の防災は、日本文教出版も東京書籍も比較的多く扱っていると思いましたので、その点も評価できるとは思いました。

そして、成長の部分については、一番多く取り上げているのが啓林館でした。最終的に私自身は、教育出版、東京書籍、大日本図書が良いという印象を持ちました。

以上でございます。

他に各委員からご発言はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、今、各委員のご意見を伺いまして、全体的に東京書籍というご意見が強いようですけれども、ただいまの協議の結果、生活については、東京書籍を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、生活については、東京書籍を採択候補とすることに決定いたしました。ありがとうございました。

次に音楽について協議を行いたいと思います。各委員から順にご意見を伺いたしたいと思います。まず伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

音楽は2社なのですが、それぞれ特長があると思いました。教育芸術社のものは、特長としては、全体的にととても見やすいことと、楽器の扱いですとか音楽的な解説、ベートーヴェンなど人物の解説ですとか、音楽を理解し、演奏ができるようになっていくことをとても丁寧に教えてくれていると思いました。ただ全体に教則本的というか、解説が音楽としては本格的だと思うのですけれども、子どもたちがつまずきやすい点についての配慮ということには、あまり力点が置かれていなくて、あくまで音楽的な理解ということに力点が置かれているのかなと思いました。

それに対して教育出版は、全体に内容的に、子どもたちにわかりやすい工夫がなされているように思いました。五線譜の読み方が難しかったり、五線譜の意味が子どもによっては理解しにくかったり、意外な点で子どもはつまずくことがあるように思います。特に、3年生のリコーダーの導入のところでは、つまずくお子さんが多くて、そのまま中学校まで音楽は苦手とってしまうお子さんもいるように思います。そういったところの解説をよく見てみたのですけれども、教育芸術社の方は、スタンダードな良い音を出すための姿勢とか、楽器を大切にしようとか、そういった音楽的なところがすごく丁寧に説明されました。それに対して教育出版は、子どもたちが指をどのように動かすのか、実際にどの穴をどんなふうに押さえたらいのかということが写真入りで書いてあるなど、わからなくなってしまったときに頼りになる情報が多いのは、教育出版ではないかと思いました。どうしても私は、その教科が苦手なお子さんが楽しく学習できるかどうかを考えてしまうのですけれども、そういう意味では音楽に親しむチャンスがなかったとか、理解がゆっくり

だというお子さんにとっても、教育出版のものは、わかりやすさがあるのかなと思いました。そういう点は、琴の説明の箇所でも感じました。考えさせたり、本格的なことを学ばせたりという意味では、教育芸術社の方が優れていると思うのですが、少し理解がゆっくりなお子さんにとっては、教育出版の方が説明がわかりやすいということがあるのではないかと思います。

ということで全体といたしましては、甲乙つけがたいのですけれども、できればわかりやすいというところで、教育出版がよろしいのかもしれないと私は思いました。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。次に渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員

音楽につきましては2社なので、ゆっくりと対比しながら見比べることができました。学習のめあてについては、両社ともにねらいがはっきり書かれていて、特に甲乙つけがたい感じでありました。

音楽ですので、どんな曲が扱われているかという点、教育出版の方は非常に曲数が多いように思いました。ただ曲については、我々もですけれども、児童が親しみを持っている曲や学校生活に合った曲が教育芸術社の方が多く扱われているような感じでした。外国語の曲も扱っているわけですが、教育芸術社の方が3、4年生から外国の曲を扱っていて、外国語活動でよく取り扱う曲を選んでいることが良い点ではないかと思いました。

また中野区では、子どもたちにオーケストラを聞かせる音楽鑑賞教室があります。そういった意味でオーケストラを扱っているページについては、教育芸術社の方が多く取り扱われていて良いと思いました。

実際に解説が多くしっかり書かれているのは教育出版で、この点は非常に良かったです。工夫ということでは、教育芸術社は折り込みがないのですけれども、教育出版は折り込みが入っていて、そのページは写真等も非常に大きくてきれいで、そういう点が良いと思います。それと楽器の取り扱い方については、教育芸術社の方が細かく書かれている感じでした。また作詞者や作曲者の紹介という点につきましても、どちらかという点で教育芸術社の方が多く扱われていて、そして有名な方をしっかりと記載していたのではないかと感じました。

全体的に6年間を通して系統的に学習を進められるような工夫というのは、教育芸術社

の方が優れていて、音楽の本をつくっていることが長いのか、音楽をもとに一つの題材と関連性を図りながら指導ができるような構成とか、音楽的な見方・考え方という点については、教育芸術社の方が良いのかなと感じました。

より音楽の教科書的という、そういった最終的なイメージで、教育芸術社を私は推薦したいと思っております。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。次に田中委員、お願いいたします。

田中委員

音楽ですけれども、子どもたちが歌う楽しさとか、演奏する楽しさとか、音楽を聞く楽しさ、そんなことを感じ取って身に付けてもらうことが大切であると思っています。そういった点から教育出版は割と子どもになじみのある曲が多く取り上げられていること、あるいは鑑賞の部分でも日本文化を多く取り上げている点、こんなところが非常に子どもたちにとって良いと思いました。

それともう1点、調査研究報告にもありましたけれども、曲のところについている写真が、非常に演奏したり聞いたりするときにイメージしやすい、そのような構成になっている点も教育出版が優れていると思いました。

以上から、この2社のうち、教育出版を私は推薦したいと思います。

入野教育長

ありがとうございます。次に小林委員、お願いいたします。

小林委員

今回の音楽の学習指導要領の改訂の趣旨としては、音楽に対する感性を働かせること、音楽文化と豊かに関わるということが強調されています。さらには、これは前回の改訂からも言われてきていることなのですが、いわゆる和楽器の取り扱い、それから我が国の郷土の音楽に親しむというか、伝統文化を大事にするという、そういう視点が盛り込まれています。こういった点を見比べて、2社についてそれぞれ良さともう少し工夫してもらいたかったという部分が幾つかありますので、申し上げたいと思います。

全体的に音楽文化に豊かに関わるとか、感性を豊かにするといった場合には、鑑賞教材がどうかということが非常に気になりました。そういったことを見比べると、教育出版の方がまさっているという状況が見受けられました。前回の改訂のときには、この2社が非



常に違っていたのですが、今回はかなり拮抗してきているという印象を持っています。例えば著名なプレーヤー、演奏家をしっかりと出して、そして記名して紹介をするなど、こういったことは今後の生涯にわたる学習への扉を開くという視点からも、私は音楽の教科書にとっては非常に大事な役割だと思っています。

そういう点では2社ともかなり良いレベルにきていますけれども、取り上げられているものを見ますと、教育出版の方が少しリードしているのかなという感じがしました。

先程、渡邊委員からもお話がありましたように、見開きを使って写真をワイドに子どもたちに鑑賞させることができる、これはやはり感性を重視するという教科を考えたときに、それなりに有効に活用できるのではないかなと思いました。感性とは別の視点で、リコーダーの指使いなども教科書のサイズからはみ出して折り込みになっていまして、常にそこを開いてリコーダーの指導ができるという、そんな工夫もされていますので、指導者にとっても、それなりに優位性があるという感じがいたしました。

特に本区の選定調査委員会の報告からも、教育芸術社に関しては、5、6年の器楽の教材が少ないのではないかという指摘もございました。教育出版に関しては、全体的に楽曲数が多いと、これは都の調査研究資料などもそのような内容になっていますので、両社はかなり拮抗はしているとは思いますが、見比べるとやはり本区にとっては、教育出版がよろしいのではという印象を持ったところであります。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。最後に私の意見を申し上げたいと思います。

私も幾つかの視点から見てみました。10代の区民の方の意見にも「英語の歌が載っているのがいい」とか、「音楽の教科書はいいな」などと書いてありましたけれども、まさに2社を比べて見ていまして、今、小林委員からもお話があったように、2社とも非常に差がなく良い感じであると思いました。

保護者から日本や世界の古くからの文化や伝統的な音楽を通じて、子どもの世界を広げられる教科書が良いのではないかというご意見をいただきましたけれども、この点についてもまさに、私も両社見させていただきまして、思うところがありました。同じ4年生を比べてみましたが、教育出版では「日本のお祭りをたずねて」とか、「おはやしのリズムを楽しもう」ですとか、教育芸術社ですと、同じ4年生で、「地域に伝わる民謡を聞いたり歌ったりしましょう」など。それで「こきりこ」が挙がっていたり、各地に伝わる民謡や郷土芸

能というページがあったりということで、非常にそういう部分ではどちらの社も良いと思いました。

そして、音楽は専科の先生が全学年を教えるというわけではないので、特に低・中学年における楽器の扱いについて見てみました。1年生の鍵盤ハーモニカの導入については、どちらも良さがあるのですが、例えば教育出版では鍵盤ハーモニカの写真が大きいとか、音階も付けているのでわかりやすいとかという良さがありますし、教育芸術社は、扱いのページをしっかりと設けて、姿勢や吹き方をわかりやすく示しているという、そういう面では指導のしやすさ、また持ち方についても非常に丁寧に書いてあるので、専科の先生ではなくても指導がしやすいかなと思いました。ソプラノリコーダーも場合によっては専科の先生ではなく、担任が導入をしなければならない学校もありますので、それを見てみましたが、どちらもソプラノリコーダーは、ジャーマン式とバロック式の運指法を掲載しておりますので、どちらを使っても良いかなと思っておりますが、ただ、リコーダーは手入れが難しいものですから、なかなか指導が行き届かないのですけれども、手入れの仕方を記載しているのは教育芸術社の方で、より良いという印象は持ちました。それぞれに特徴もありますし、良さがあると思います。

もう1点は、作詞者・作曲者以外の登場人物ということで、扉のページを6年生で比べてみました。教育出版は、辻井伸行さんが出ていて、教育芸術社は、伝統芸能で歌舞伎、スーパー歌舞伎の市川猿之助さんが載っていました。非常に両方とも良いなと思いましたが、教育出版は、野村萬斎さんも5年生に載っていたりしますが、いわゆる現代音楽のミュージカルの新妻さんや、ピアニストの辻井さんを取り上げているところがあると思います。教育芸術社の方は、今、言いました市川猿之助さんの他に、浅田真央さんも取り上げていて、子どもたちには興味深く学習ができると思います。

さらに子どもたちがなかなか歌わなくなる変声期の扱いや、その配慮についても、両社ともきっちりと5年生ぐらいの段階から記載があるところが良いかなと思います。特に、教育芸術社は、5、6年生という配慮がありますし、変声期という記載もあるというところで、なお良いと思いました。

私は甲乙つけがたい感じがしたのですけれども、教育芸術社の方が私としては良いという思いを持ちました。

以上でございます。

ここで休憩をいたします。

午前10時00分休憩

午前10時01分再開

入野教育長

それでは、会議を再開いたします。

他に各委員から発言ございませんでしょうか。

渡邊委員

教育出版の方が今のところ皆さんの大勢のような感じがしているのですけれども、本当に甲乙つけがたくて、どちらの教科書を選んでも子どもたちにとっては、何ら問題はないとは感じております。

ただ一つ、つけ加えさせていただくと、音楽の教科書の中での、国歌の取り扱いという点について、「君が代」につきましては、教育芸術社は全ての学年において、巻末に、開けてすぐのところに記載されています。そういう点は、やはり国歌を覚えて大切にしようという、ある意味国を尊重するねらいや工夫がされているのではないかという点につきましては、評価したいなと思っております。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。

私も国歌の扱いについては、どちらの社も学習指導要領に則ってきちんと扱われているとは思いました。

全体的に教育出版というご意見が強いように思われましたが、音楽については教育出版でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りいたします。

ただいまの協議の結果、音楽については教育出版を採択候補とすることでご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、音楽については教育出版を採択候補とすることに決定いたしました。

次に図画工作について協議を行います。各委員から順にご意見を伺いたいと思います。まず渡邊委員、お願いいたします。

## 渡邊委員

図工の教科ということ、やはり表現や鑑賞、造形的な見方・考え方というものを観点にいろいろ見させていただきました。選定するに当たっては、その点を注意して見ていたのですけれども、今回、2社とも教科書の大きさも一緒に厚さも大体同じ、それで二つを一緒に並べてページをめくってみると、ほとんど内容的にどっちがどっちだかわからなくなるぐらい、非常に内容的にはよくできているのではないかなと思います。

なかなか決定付けるものが見当たらないというのが今回でした。ただ、みんなで共同で取り組む活動を掲載している、子どもたちがコミュニケーションを図りながら活動するようになっているというのは、開隆堂出版の方が多かったように思います。

また日本文教出版は、各題材の最後に学びを振り返るページがあり、次の学習・生活に生かすという形の工夫がされていました。また日本文教出版は、材料や用具の基本的な使い方については、より丁寧に表現されていたように感じます。

ただ開隆堂出版には、コンピューターを使ったプログラミング教育の事例も取り上げられていますし、各題材にQRコードを掲載して、インターネットにつなぐことで用具の扱い方や表現などのコンテンツを見ることができます。その点が日本文教出版にはありませんでした。

こういう点に私としては重点を置かせていただきまして、また、図画工作という教科書のタイトルの中に、開隆堂出版に関しては、「心を開いて」とか、「できたらいいな」とか、一つ一つ学年のテーマが書いてあって、こういったところも非常に子どもたちのやる気や興味を高めるための工夫として良かったと思いました。今回につきましては、開隆堂出版の方が私としては推薦できると思いました。

以上です。

## 入野教育長

ありがとうございます。次に田中委員、お願いいたします。

## 田中委員

図画工作の2社は、今、渡邊委員からもご指摘ありましたけれども、どちらもよく工夫されていて、どちらが良いのかなかなか難しく感じました。

ただ児童に学んでほしい力を明確にしているという点で、日本文教出版は、特に最初の目次のところでも細かくそういった配慮があると感じました。一方、開隆堂出版で私が良いなと思ったのは、共同で取り組む活動という部分で、例えば高学年で自分たちが作った

ものを1年生に見せて一緒に考えるという、そのようなところは主体的な学びにつながって、大変良い部分ではないかと感じました。

2社甲乙つけがたいのですけれども、どちらかというところ、今お話しした、他の学年と一緒に何かをするという部分を含めて、開隆堂出版を推薦したいと思います。

以上です。

入野教育長

ありがとうございます。次に小林委員、お願いいたします。

小林委員

図画工作に関しては、鑑賞教材が多いこと、子どもの作品が多く取り上げられていることなど、いろいろな視点があるかと思えます。この教科の特性として、個人の活動にかなり多くの時間を割く場面がどうしても多くなると思うのですが、それももちろん大事なのですが、さらに大切なポイントとしては、共同して作り上げるとか、自分の考えだけではなくて様々な考え方をうまく取り入れながら、その活動に生かしていくとか、そういう人との関わり、そういうことも重要ではないかなと思ひ、選定のポイントとして一番重きを置きました。

図画工作の特性の幾つかから見ると、開隆堂出版の方は、いわゆる鑑賞教材を非常に重視している、日本文教出版は、子どもの作品をかなり重視しているという、こういう違いがあると思ひます。どちらが良いかというのは、様々な意見があると思うのですが、私はそういう点では今後の図画工作の指導を進めていく上では、開隆堂出版の方に優位性を見出したところでありまひす。

それからもう一つは、作品を見てみますと、本区の選定調査委員会の報告の中にもありますけれども、開隆堂出版はどちらかというところ、鑑賞教材の中に日本の作品を多く取り上げているということも強調されていまひました。一方で日本文教出版の場合には、現代美術を多く取り入れているという一つの特徴がある。これもそれぞれの良さで、一概にだからどちらが良いということとは言えないと思ひますけれども、やはり今の教育の流れとか、様々なことを考えたときに、まず日本の文化、日本の美術のすばらしさというものをしっかり学ぶということは、すごく大事ではないかなと思ひましたので、この点も開隆堂出版の優位性を感じたところでありまひす。

全体的に情報量からすると、日本文教出版はしっかりと多く構成されていて、指導の糸口としては良いと思ひますが、実践教科ということ考えた場合、情報量がどうかという

のは、優先順位としては少し後になるのかなと思いました。それぞれの良さが際立っているとありますが、両社を比べると、開隆堂出版の方に優位性を感じたところでございます。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。次に伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

2社ではあるのですが、随分異なる特徴をそれぞれが持っているように思いました。私が注目いたしましたのは、今回、教科の目標としての造形的な見方・考え方ということ、それから主体的・対話的で深い学びということに関連すると思うのですが、自分自身の感性、自分の見方・感じ方というのをどう深めるかという点です。こういった点は、現在、中学校での美術教育でも、以前に比べて大変重視されるようになってきているように感じております。中学校との接続ということを考えても、造形的な見方・考え方や自分自身について感じながら、自分の感じ方を確かめながら、自己表現していく、という活動が可能になることは重要であろうと思っています。

それと中学への接続だけでなく、今、ICT、特にパソコンでプレゼンテーション画面や文書を作成するといったときに、デザインということが大変身近なことになっています。造形的な見方・考え方がICTを使って仕事をしていく上で、職種に限らず、ビジュアル化の時代というのでしょうか、以前よりも必要となってきたと感じておりますので、そういったデザインの基本が学べるということも大事なのではないかと思います。

そういった点で考えますと、開隆堂出版は非常に見ていて楽しいというか、ワクワクするような図工らしい楽しさはあるのですけれども、今申し上げたような見方・考え方という点では、少しわかりにくいというか、説明があまりないように思っております。

それに対して、例えば、5、6年生の下巻の裏表紙のところを見ても、日本文教出版は形や色を楽しもうということで、同じ大きさの同じものでも手前にあるものは大きく見えて、後ろに置くと小さく見える。だから小さく書くと後ろという感じが出るというように、デザインの考え方を端的に示しています。こういった知識は、自分でパソコンを使って文書やプレゼンテーションスライドを作ったりするときにも必要なデザインの基本かと思えます。そうしたことが、非常にわかりやすく述べられています。各単元においても、例えば筆の跡によってどんなことが表現されているのだろうというテーマで、「この筆跡、どんな

空？」というふうに鑑賞のポイントが示されるなど、表現の違いを見つけてみようと、見るべきポイント、考えるべきポイントが非常に明確で、そういう表現の工夫が作品に隠されていることを発見しながら深い鑑賞ができて、いつの間にか造形的な考え方・見方が学べるようになってきているという点で優位性があると思いました。

全体として日本文教出版は地味というか、割と抑え気味に作品が構成されているので、見てワクワクするような楽しさがあるということではないのですが、よく見てみると、上から見たり下から見たり、見方を変えるとこんなふうに見えるのだよとか、そういった造形とかデザインのおもしろさというものがわかるようになっていて、なかなかそういった視点を学ぶ機会がないと思うので、そういう意味では非常によく考えられた、今回の学習指導要領の改訂に沿っているものだと思います。

それともう一つは、用具の使い方とかについても、日本文教出版の方は非常に丁寧でわかりやすく、両者ともにユニバーサルデザインの教科書ではあるのですが、少し図工が苦手というか、造形的な考え方を自分で発見できないとか、あるいは色の感じ方が弱い、などのお子さんにとっても、ポイントを発見して学べるわかりやすさがあるのではないかと思います。

また同時に、自分自身について感性を確かめながら表現していくということに関しても、「感じて考えて」ということで、材料に触れてどんなことを感じたかを確かめながら進むという説明も日本文教出版にはありました。

ワクワク楽しくみんなと活動するという楽しさは、開隆堂出版の方が良いのですが、少し内向的なというか、楽しくみんなでというよりも、造形や図画表現をじっくり楽しみたいお子さんや、あるいは図工は少し苦手というお子さんにとっても、いろいろな発想や隠れたデザインの法則など、知識を得る前とは違った観点から、美術・芸術に親しめるよう導いてくれるのは、日本文教出版の方だと思いますので、日本文教出版の方がよろしいかと思います。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。最後に私の意見を述べたいと思います。

委員の皆様から出たご意見も誠にそうかなと思いました。私としては、作品件数は、2社を比べると日本文教出版の方が圧倒的に多いようなのですが、これについては都の調査研究資料からもそうですし、選定調査委員会等からも上がってきているのですが、こ

れについてはどう評価したら良いのかという点で考えました。保護者の意見では、作品数が多いと子どもたちがそれにつられてしまうのではないかというご意見もありましたけれども、反対に図画工作に関しても、やはり専科の先生が中高学年から指導するということになりますと、低学年は担任が教える場合もあるということでは、いろいろ作品があった方が良いという捉え方もありますので、これについても少し判断はどうかと思いました。同じ作品でも開隆堂出版については、学校の意見からは少し難しい内容の題材が多いと感じるというご意見もありましたので、そこで一つ評価をしようかと思っております。

もう1点は、先程もお話ししましたように、低学年は担任が教えることが多いので、道具の扱いについてどのように記載されているかというところで、違いを見ていこうかと思いました。どちらかというところ、開隆堂出版よりは、日本文教出版の方が若干丁寧でした。これは学校からの意見にも挙がりましたが、私もそんな気がしております。両方とも非常に全国の特色ある美術館が載っていて、子どもたちの興味を引きやすいという部分があるのですが、個別化していくとなると、そういうところに違いがあるかなと思いました。

もう1点は、登場する児童の写真を見てみましたところ、外国籍の児童が出てきて作業をしているところが写っているのは、中野区の実態にも合っていますので、私としては、そういう点からいって日本文教出版が良いという思いを持ちました。

以上です。

他に各委員から発言はございますでしょうか。

小林委員

先程私が申し上げた、いわゆる個人的な活動よりも共同してということなのですが、その点で先程申し上げなかったかもしれませんが、共同して作り出す活動に関するものは、開隆堂出版が多いというような点の調査結果もあります。この点も一応、申し上げておいた方が良くかと思っておりますので発言いたしました。

以上です。

入野教育長

他に委員から発言はございますでしょうか。

それでは、全体的に開隆堂出版という意見が強いようでございます。図画工作については、開隆堂出版でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りをいたします。ただいまの協議の結果、図画工作については、開隆堂出版を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。



(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、図画工作については開隆堂出版を採択候補とすることに決定いたしました。ありがとうございました。

会議を休憩いたします。

午前10時21分休憩

午前10時22分再開

入野教育長

それでは、会議を再開いたします。

次に家庭科について協議を行います。各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

まず田中委員、お願いいたします。

田中委員

家庭科の教科の目標に掲げられている日常生活に必要な基礎的な理解と、それらに関わる技能を身に付けるという、そういった視点からこの2社について検討してみました。

大きさも違うのですが、特に開隆堂出版の方は、イラストよりも実際に作業している写真が多いことと、写真の濃淡というのですか、割と見たときにスムーズに写真が目に入ってくるという点で、開隆堂出版が良いと感じました。

それともう1点、例えば開隆堂出版の「できるよ、家庭の仕事」というところで、男子の児童が縫い物をしたり食器を洗ったり、あるいはお父さんと子どもが後片付けをしたりというところで、男子が積極的にこういった家庭のことに取り組むところを強調していると感じました。これからの社会は男女共同参画の中で、男子もこういったことに積極的に関わるということは必要なことだと思うので、この点で今回開隆堂出版を評価したいと思いました。

以上です。

入野教育長

ありがとうございます。次に小林委員、お願いいたします。

小林委員

この2社はそれぞれの良さというか、非常に工夫があると思います。従って、いろいろな視点から見て、東京書籍が良いとか、開隆堂出版が良いとか、様々あると思いますが、私はまず一番に着眼したのは、教科書の構成上、開隆堂出版が一番下に「ひとロメモ」というの

がずっと出ているのですね。この「ひとロメモ」に関しては、有効に活用できるのではないかと思います。

それから紙面上、それぞれページの構成が違って、例えば裏表紙を見ると、包丁の切り方などが開隆堂出版にはありますが、東京書籍はこういったものは中に入っていること。紙面の構成上の問題ですが、全体的に見ると先程も指摘がありましたが、写真が多いなど、そういうことでは、見やすいという視点から、開隆堂出版の方が少しリードしているという印象を持っています。

特に教材の用具の説明に関しては、両社とも甲乙つけがたく、非常にしっかりと適切に先生方が指導できるように、具体的な調理の手順など、様々なことがしっかりと書かれていると思います。どちらかという、やはり見やすさなどそういったものを私としては重視したいと思っております、両社を比べると開隆堂出版の方が少し上にくるという印象を持ったところであります。

以上です。

入野教育長

ありがとうございます。次に伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

家庭科の2社なのですけれども、甲乙つけがたい部分と割と特長がはっきりしている部分があると思えました。着眼点としましては、主体的に考えていく、主体的に生活を自分でつくっていくという視点が今回の学習指導要領の改訂との関連で、明確かどうかということがあります。

あともう一つは、どうしても家庭科嫌いのお子さん、教科についていけなくなってしまうお子さんが気になっています。現在家庭科は、普段したことのない針仕事をしたり、新しく入ってきた消費者生活の知識など、法律的なこと知識的なことが、社会科のようで難しいということが、小学校でも中学校でも、ハードルになりやすいと感じています。そういった点への配慮を中心に見てみました。

他の委員からもご指摘がありましたように、開隆堂出版は大変見やすく、針仕事のところもきちんと書かれていますし、特に玉どめができないお子さんが非常に多いのですけれども、そういったところもきちんと書いてあって、わかりやすいということはあるなと思います。それに対して東京書籍は、判は大きいのですけれども、そこにたくさんのものが詰まっているのか、若干見づらいということはあるなと思えました。ただ、今、申し上げた

玉どめなどについても、きちんと書かれていて、なおかつ東京書籍は、生活を変えるチャンスみたいな形で、どういうふうに自分の生活を主体的に考えていくのかということとか、持続可能な暮らしということですか、そういった、やや社会科的なのかもしれませんが、主体的にという観点が盛り込まれていると思いました。また、そういった点についての説明が生活に密着していて、いろいろな支払いの方法、I Cカードとか商品券とか、そういうものを具体的な写真を出して示すなど、具体的に生活に密着して考えていくことがしやすいように思いました。

買い物の仕組みですか、そういった消費者教育的なところになりますと、開隆堂出版は、説明がやや抽象的なので、子どもにはわかりにくいところがあるのではないかなと思いました。開隆堂出版は、暖かく過ごすとか、理科的なことについてはわかりやすい面もあると思ったのですが、全般的に、主体的に課題を見つけて、生活に密着して考えていくという点では、東京書籍が良いと思いました。個人的にはどちらも捨てがたいのですが、東京書籍の方が若干良いのかなと思いました。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。次に渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員

家庭科の教科書につきましては、結構こだわりがありまして、前回見たときも、家庭科の教科書というのは、本当に一般の生活に極めて密着していて、我々が一番怠っている部分が、こういったところにあるのではないかなと感じております。そういった意味で、まず学校が終わっても、中学生になっても、この本を1冊家に置いておいて、パラパラっと見る、辞書的な感覚の見方をすると、どちらかという、最初に、このA4サイズがなじみやすく、内容も多くて、東京書籍の方が非常に見やすくなっているとまず感じました。

内容につきましては、一番最初に学習しているのは、お湯をわかしてお茶を入れようというところで、日本としての文化をしっかり押さえているのですけれども、ここでお茶を入れたときに、入れ方までは一緒なのですけれども、東京書籍は次のページになると、玄米茶、玉露、抹茶、番茶、ほうじ茶という、そういったお茶の違いを明確に書いていて、実際非常に丁寧に表現されています。そのあたりもデジタルコンテンツへのリンクという形でDマークがあり、いろいろな部分も調べられるようになっているのですけれども、なかなか確かにインターネットといえども、この本の中で解決するということを考えれば、こう

いう書き方というのは非常によろしくて、農業組合の方のお話も書いてあると、お茶に対する知識を深めるという意味では、技能的なものを学ぶという以上に、非常に多くのことが記載されているのではないかと思います。

次にいろいろとあるのですけれども、ホウレンソウとジャガイモのゆで方、こちらを見ますと、同じ野菜をゆでるに当たって、青菜とイモでは、開隆堂出版は、右ページと左ページに分かれていて、こういう対比は良いのかどうか。これは確かに調理するときはこちらの見方も良いのですけれども、勉強していくときには、上下に分けて東京書籍は表現していて、上下に分けた方が対比という形で、もののゆで方という考え方について、非常にわかりやすいと思いました。

それで少しおもしろかったのは、竹ぐしをジャガイモに刺して、なぜ竹ぐしを使うのだろうというような表現をしたのは開隆堂出版なのですけれども、辞書的に使うのなら竹ぐしを刺して固さを確認すると書いておいてもらった方が、実際には役に立つと思いました。確かに教育的には、開隆堂出版のそういった表現はすごくおもしろいと思ったのですけれども、そういったところがやはり違う。

それと意外なところだったのですけれども、野菜のゆで方のページを見ていくと、東京書籍の方は、季節のある野菜を分けていて、そういった表現を工夫をしていて、実際に季節野菜という表現は開隆堂出版には見られませんでした。

次に手縫いについての表現は、どちらも同じようなのですけれども、東京書籍の方が、手順としてはやりやすく書いているのではないかなと感じました。

その他、内容自体は全て大体一緒なのですけれども、両方ともご飯の炊き方というのが出ているのですけれども、ここでも表現が多少異なっています。どちらかというところ、ご飯の炊き方の時間には両者差があるのですけれども、その点については、こちらの方も東京書籍が、実際に即した書き方になっているのではないかと思いますし、内容の表現の仕方は大体一緒で良いのかなと思いました。

次のページのみそ汁を作ろうといったところ、東京書籍の41ページなのですけれども、みそがあるのですけれども、こういったところが先程のお茶と同じように、大豆と塩と米のこうじと麦こうじと種こうじということで、違うみそが作り上げられているのだという、こういう丁寧な表現がされていて、非常にわかりやすいという形になっていました。こちらでも開隆堂出版には表現がなかったかと思います。

細かい点でいろいろと言ったのですけれども、栄養については、三大栄養素についての

記載については、両方ともよく書かれているけれども、内容的には開隆堂出版の方が多かったかなと思います。

ただ決定的に良かったのは、東京書籍の最後のページに、「いつも確かめよう」というページがあるんですね。ここの中に、包丁の使い方、切り方、ジャガイモのむき方、糸の縫い方、こういったものが最後にまとめてあって、こういった表現が開隆堂出版の方にはありませんでした。その中でも安全に配慮したということで、「いつも確かめよう」の中に、安全に実習しようということで、調理実習の手洗いをきれいに記載している、こういったところがやはり一つ家庭に置いておいて、役に立つ本、我々が常に見直すことができる本という、やはり今回においては東京書籍の方が、かなり優れているのではないかなと私は思いまして、家庭科については東京書籍と考えさせていただきました。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。

ここで休憩いたします。

午前10時37分休憩

午前10時47分再開

入野教育長

それでは、会議を再開いたします。

最後に私の意見を申し上げます。

大変二つとも特徴的だなと思いましたが扉のページでして、開隆堂出版の方は、これまでの学習と家庭科をつなげて考えようとしておりますし、東京書籍の方は、「家庭科はあなたの生活をよりよく変えていく教科です」ということで、ここから始まるという形の、図の方は生活科のこととか理科のことも書いてありますけれども、見出しから見ると、この違いは非常に大きいと思います。

都の調査研究資料から見ても、各教科とのつながりや発展的な内容を取り上げている箇所というのは、開隆堂出版の方が明らかに多いようでございます。私としては、今までの学習とつながって学習していこうという視点も大事かなと考えております。

さらに開隆堂出版で少し気になる点といたしますのは、一部のイラストの調理の部分なのですが、マスクをしていない状況の子が出てきていることや、あとは今は非常に家庭が複雑になってきておりますが、目次を見ていただくと、開隆堂出版は「家族の生活再発見」な

のですが、東京書籍は「私の生活大発見」ということで、自分の生活を中心に家族を見ていくか、家族ということで見ていくかの違いはあると思います。そのあたりは使うときに配慮しなければいけない点とは思いますが、区民の意見にもありましたように、「なぜ掃除をするのか」、「なぜ食べるのか」という問いで始まっている部分は、各单元ともありまして、非常に子どもたちに自分を見つめたり考えさせたりする点での編集ということで、開隆堂出版が良いと私としては結論付けました。

以上でございます。

他に各委員から発言はございませんでしょうか。

渡邊委員

確かに私は東京書籍を推薦したのですが、開隆堂出版については、先程も申し上げましたけれども、三大栄養素、五大栄養素についてと三つの食品グループの分け方という形の栄養の考え方については、ちょっと表現法が違うのですが、開隆堂出版の方がこれについてはわかりやすいのかなと思いました。

また食事の後の、次のページにも書かれている工夫も、開隆堂出版の方が実践的で、そして家庭で実践しようチャレンジコーナー、こういうものを設けているのも、いろいろと非常に工夫された教科書として、学習を進めていく上では、開隆堂出版の教科書というのは、よくできているのではないかなと私も感じます。

以上です。

入野教育長

他に委員からのご発言はありますか。

田中委員

先程教育長も指摘されていましたが、各单元で「なぜ整理整頓するのだろう」、「なぜ毎日食事をするのだろう」という問いかけは、家庭科は非常に実生活に結び付いた教科書ですので、子どもたちが学ぶきっかけになるという意味で、良い編集の方法かなと感じました。

以上です。

入野教育長

他にございますでしょうか。

小林委員

先程各委員の方々から総合的に見て指導のしやすさなど、東京書籍もかなり優位性が上

がっておりましたけれども、それも私は非常に強く感じます。一方で、現代的な課題というのでしょうか、先程田中委員からもご指摘があった男女平等の視点とか、金銭教育とか消費者教育、そういった切り込み方というのは、非常に開隆堂出版は細かくわかりやすく扱っているという優位性があるかなと感じております。

以上です。

入野教育長

ありがとうございます。

私からも1点、先程図画工作でもお話をいたしましたけれども、開隆堂出版の方は、外国籍の子どもも登場していたり、用語が英語で記載されている部分があったりということで、そういう配慮もされていると感じました。

ここで会議を休憩いたします。

午前10時54分休憩

午前10時54分再開

入野教育長

それでは、会議を再開いたします。

家庭科につきましては、開隆堂出版と東京書籍が遜色ないといえますか、どちらもそれぞれの良さがあるということで、ご意見が出ておりましたけれども、全体的に見ていきますと、開隆堂出版の良さのお話が出ていたところが多かったようでございますので、開隆堂出版というご意見が強いと判断して、家庭科については、開隆堂出版ということでよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りいたします。

ただいまの協議の結果、家庭については開隆堂出版を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、家庭については開隆堂出版を採択候補とすることに決定いたしました。

次に保健について協議を行います。各委員から順にご意見を伺いたいと思います。まず小林委員、お願いいたします。

小林委員

保健につきましては、五つの会社のものがあり、それぞれ特徴を感じました。選定の視点としては、特に健康に関する課題解決的な学びというのが非常に重視されているか、健康な生活とか疾病の予防とか障害に対する防止、こういったことがしっかり盛り込まれているかどうか、さらには適正な男女平等教育の推進という視点も、特に保健という内容の特性からいっても重要ではないかと思いました。

この点を幾つか比べてみますと、特に男女平等の視点ということでは、東京書籍が非常に適切な、多様な人との関わりの例示をするなど、非常に的確性のある記述が見られます。

一方で光文書院に関しては、生活環境の大切さ、逆に生活環境の乱れがいかに関人の健康、生活に大きな影響があるのか、そういった課題を積極的に取り上げているという、着目すべき点があったように思います。

本区でもがん教育に関して推進していこうということがあり、この点に関しては、がんについて記述のない会社も残念ながらありました。そういうところでは、光文書院と大日本図書と東京書籍の扱いはしっかりしていると思ったところです。

それから教科の体育ということ考えた場合、オリンピック・パラリンピックの記載がどのような状況にあるかということですが、各社ともそれぞれのトップアスリートを掲載したり、様々な視点で掲載しているのですが、光文書院はオリンピックとパラリンピックの二つをバランスよく取り上げているという点は、非常に大事なところではないかと思いました。

なお、最初に申し上げた選定のポイントの課題解決的な学習に関しては、中野区の調査研究会の方からも、東京書籍は指導がしやすいとか、また光文書院に関しては漫画形式であるなど様々な工夫があって良いというプラスの評価をされておりますので、私としては光文書院か東京書籍といったところを候補として挙げたいと思っております。

以上です。

入野教育長

ありがとうございます。次に伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員

保健なのですけれども、やはりそれぞれに少しずつ特徴があるなと思いました。見やすさや親しみやすさということであると、学研教育みらいが写真ですとか図とかが見やすいということはあるように思いました。そういう点では学研教育みらいが良いかと思うのですが、全体的な授業の取組、授業の中での活動などが詳しく書かれていて、授業をし



やすいのは東京書籍なのかなと思いました。

私として重視したのは、保健ということで自分の体、または周囲の人の健康、体を守っていくということで、予防ですとか安全教育、健康教育というところが、はっきりしているのが良いと思っております、そういう点では光文書院は良いと思いました。特に中野区の場合、都心で、小さな道を車が走るなど交通安全も重要な課題と思うのですけれども、光文書院のものは、内輪差の話などが丁寧で、身近な例も挙げながら交通安全について詳しく書かれていました。心の健康という單元でも、どんなふうに対処したら良いのかということで、コミュニケーションというところも含めたり、心と体のつながりということが書かれていたり、発達ということについても大分ページが割かれていて、どんなふうに人が変化していく中で、自分で問題解決をしながらどんなことに気を付けていったら良いのかということが、わかりやすいのではないかなと思いました。もちろん体の病気についても、どういうふうに自分の体を守ったら良いのか、幾つかの原因が関わり合って病気が起きるとい、病原体と環境と個人の抵抗力という原因の重なりで病気の発生を捉える疫学的な考え方など、健康教育の基本的な考え方がさりげなく盛り込まれていました。そのような点で、よく見てみると光文書院がよろしいかと思いました。

以上です。

入野教育長

ありがとうございます。次に渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員

多少、自分の専門分野のこともありまして、いろいろと考えを出させていただきます。

今回、保健の技能というよりは、健康のための勉強ということがどういうふうにかかれているのかということで、まずこの中で、今、自分も大切にしているのは心の健康について、それぞれどのような記載があるのか、單元別にどれぐらいボリュームをとっているのかというところを確認させていただきました。

実はいろいろな意味で、東京書籍だけが偏りがあって、分量としては確かに健康のページに量を割いているのは東京書籍で、心の問題や、けが、病気の予防に多くページを割かれているように思います。ただページの分量だけを見ますと、そのような書き方があるのですけれども、内容から見ると、やはり少し違いがありまして、まず心の健康のアプローチの仕方、特に注目していたのは、大日本図書と東京書籍と光文書院なのですけれども、東京書籍は、調べる、気付く、見つけるという表現で、光文書院は考えよう、話し合おう、調べよ

うなどと、アプローチの仕方は多少違うのですけれども、心の発達についての丁寧な記載は、光文書院の方が良かったのではないかなと感じます。

そして光文書院はなかなかよくできていまして、実際に東京書籍と比べてそこに割かれたページ数は少ないのですけれども、重要な点についてはわかりやすく全て表現されていて、必ずしもページを多くとれば良いというわけではないというか、わかりやすく重要なものを、グループごとに分けたような表現の仕方を書いてあって、とても良いです。感染予防のところには、さらに広げよう、深めようという、別の単元を用いることによって、必要な部分についてはより詳しい書き方をしています。特に、喫煙の問題について見ると、光文書院は喫煙、飲酒、危険ドラッグについての記載というものが非常に充実していたのではないかと思います。

あといろいろなところでおもしろかったのは、大日本図書は、相談するときの窓口が具体的に記載されていて、SOSダイヤル、チャイルドラインをしっかりと書いてあるというのも良かったかなと思います。

文教社や学研教育みらいについては、若干他の3社に比べると、内容的に表現があまりよくなかったのかなと思います。ただ病気の予防については、文教社もよく書かれていたかと思っております。

今のことを全体的に見ますと、光文書院の保健の教科書が、非常に内容的に充実し、わかりやすく表現されているのではないかなと思いました。私としては、光文書院を推薦したいと思いました。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。それでは田中委員、お願いいたします。

田中委員

保健は、健康課題に自ら気が付いて、意識できるようになるという部分が大事な教科だと考えています。各社とも問題解決の学習によるというところで、教科書の冒頭で学び方ということで細かく工夫をして、丁寧な記載がありますけれども、特に光文書院は例えば3、4年生だと、一番最初のところにパラリンピックの辻沙絵選手の写真と文章が出ていて、自分はこんなふうにして健康を守っているということがあり、さらにその次のページに、どうして保健の学習をするのでしょうかというページがあるので、ここの部分は光文書院が児童にとって非常に使いやすい教科書かなと感じました。

それと、東京書籍も大変中身が丁寧で良いなと思ったのですけれども、かなり厚くてボリュームもあるので、限られた時間の中でこれを全部消化するというのが、学校現場で少し大変なのではないかなという部分を危惧しました。

それから生活習慣のところ、東京書籍と光文書院は、歯の健康についても、大変丁寧にページ数を割いて取り組んでくださって、良いなと思いました。ただ、最後のまとめのところ、例えば光文書院は深める・伝えるというところで、「友達にかけ言葉を考えて、右上の吹き出しに理由もあわせて説明しましょう」「他の人の意見を聞いてわかったことを書きましょう」などと、非常にコンパクトにまとめをしているのですけれども、一方、東京書籍は非常に丁寧な分、質問、まとめの項目も多くて、どちらかというコンパクトな光文書院の方が、児童は学びやすいのかなと感じました。

以上のことから、私は光文書院と東京書籍が、この中では望ましい教科書だと思いましたけれども、特に光文書院を推薦したいと思います。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。最後に私の意見を申し上げます。

私もかなりどの社も特徴があるなということと、東京書籍の総ページ数が他の社と比べて多いことをどういうふうに評価するか、どういうふうに考えるかということを感じております。

一つは、ワークシート的にも使えるので、ページ数が多いのかなという気がしますが、十数時間で学習することになる教科書については、あまり厚いのはどうかという考え方もあると思っております。中間的なのは光文書院なのかなと思いますけれども、構成的にいうとそんな感じを持っております。

今、大きく2点、オリンピック・パラリンピックがちょうど始まる年にこれを使い始めるということ、レガシーも含めてオリンピック・パラリンピック教育とどうリンクしていくかということも、一つの大きな視点かなと思いますが、他の委員からもお話が出ましたように、オリンピックやパラリンピアンがどの社もたくさん出てきております。学研教育みらいが一番年齢的には、子どもたちに近い人たちが載っているという印象を持ちましたけれども、いろいろな意味でこれはウエートが置かれているなと思います。社によっては後ろ扉の方にもそれぞれ工夫があるのですが、ここもオリンピック・パラリンピアンもありまして、そこをどう評価するかということをおもいました。

それから、多くの委員から出ていましたように、もう一つ教育課題としては、中学の学習指導要領では、これからはがん教育を取り上げなければいけないことになっていますが、小学校においても、がんについて取り上げていないことは、これからはちょっとどうなのかとも思いました。

いずれの社も子どもたちの不安や悩み、特に5年生の中ですけれども、それについては適切な記述があると思いましたが、光文書院は、特にいじめを受けたり見たりしたときは、「先生やスクールカウンセラー、家の人などに相談しましょう」という注釈があることは、非常に、今大事な部分かなと思います。

また、子どもたちの健康と運動の関わりという部分で少し見てまいりましたけれども、それについても私は光文書院と東京書籍とが良いと思いました。それから学研教育みらいも次に良いと思いました。というわけで、光文書院、学研教育みらい、東京書籍ということで、順位付けはそのような形になると思っております。

以上でございます。

他に各委員から発言はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、全体的に光文書院、東京書籍、学研教育みらいと挙がりましたけれども、全体的に光文書院のご意見が多かったように思います。保健については、光文書院でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りいたします。

ただいまの協議の結果、保健については光文書院を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、保健については光文書院を採択候補とすることに決定いたしました。ありがとうございました。

ここで休憩いたします。

午前11時13分休憩

午前11時14分再開

入野教育長

会議を再開いたします。

本日の協議はこれまでにしたいと思います。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会第7回臨時会を閉じます。

ありがとうございました。

午前11時15分閉会